

平成28年度の日本アニメーション学会第19回大会の実行委員長を務めます、武蔵野美術大学の陣内利博です。本大会は1817年に日本で初めてのアニメーション作品が上映された年として「日本アニメ100周年」と呼ばれる記念すべき年の大会となります。学会としても原点に戻り「アニメーションの原点」と題して、事物を動かす「いのち」を与えるアニメーション表現と造形の歴史を再考する機会とします。今回は、美術のみならず特撮、アニメーション、マンガなど幅広い表現領域のコレクションや展覧会の開催をしている青森県立美術館を会場とします。隣接する三内丸山遺跡は日本文化のルーツを考察する上での重要な縄文文化遺産であり、美術館は遺跡の発掘現場を連想させる独特な空間を有しています。日本アニメーション誕生100年という記念すべき本年にANIMAの原点でもある「縄文の地、青森」での学会開催は意義深いものとなるでしょう。本年度は、テーマに沿った学会長の「アニメーションの原点、その研究の原点、学問と学会の原点」という基調講演。さらに2つのシンポジウムを用意いたしました。シンポジウム1では『「日本のアニメーション」の「はじまり」』と題して日本アニメーションの歴史的技術的变化を議論します。シンポジウム2は青森県立美術館だからこそ語れる『美術、特撮、そしてアニメーション ～成田亨の仕事を中心に』を現物紹介を交えて議論して行きます。研究発表では、テーマに沿った研究(テーマパネル)が8発表、一般研究(一般パネル)が10発表準備されております。皆様のご参加をお待ちしております。

第19回日本アニメーション学会大会実行委員長 陣内利博

- 主催 : 第19回日本アニメーション学会大会実行委員会(日本アニメーション学会)
- 共催 : 青森県立美術館
- 協力 : 武蔵野美術大学
- 実行委員長 : 陣内利博(武蔵野美術大学)
- 実行委員 : 伊藤隆介・倉重哲二(北海道教育大学)、大島慶太郎(北海道情報大学)、
工藤健志(青森県立美術館学芸主幹)、津堅信之(アニメーション研究家)
いがらしなおみ(北海道放送芸術専門学校)
- 特別協力 : 北海道アニメーション教育協議会 三浦啓子(北海道教育大学)

【日程について】

大会 2017年6月24日(土)、25日(日)
学会総会 2017年6月25日、研究発表終了後
エクスカージョン (エクスカージョンは参加希望者僅少のため中止となりました)

【大会会場について】

青森県立美術館

会場は1F シアター 及び B1F ワークショップA・ワークショップB

<http://www.aomori-museum.jp/ja/>

*現在開催中の企画展「ラブラブショー2」及び「コレクション展」を
団体割引価格でご覧頂けます。

【大会参加費について】

会員 5000円
一般・学生 2000円

【ホテルについて】

青森駅周辺での宿泊をお勧めします。

公益社団法人 青森観光コンベンション協会

「あおもり案内名人 泊まる 青森市内」からのご検索ください。

<http://www.atca.info/listview.html?cid=5&jid=1>

【懇親会について】

6月24日(土)

青森県立美術館のカフェ『4匹の猫』にて(会費制)

会員 3000円

学生 3000円

*一般 3000円

http://www.yonhikinoneko.jp/4neko_3.html

【交通手段について】

当日県立美術館までの足

青森駅からバス定期便が出ています。

<http://www.aomori-museum.jp/ja/access/#bus>

*2日目終了時はバスがありますが、1日目の懇親会後の交通手段は
乗り合いで青森駅までタクシーです(約200円)。

【プログラム】

6月24日(土)(12:00~受付開始)

13:00 開会式	: シアター
13:05 基調講演「アニメーションの原点、その研究の原点、学問と学会の原点」	: シアター
14:35 【10分休憩】	
14:45 シンポジウム1「日本のアニメーションの“はじまり”」	: シアター
16:45 シンポジウム2「美術、特撮、そしてアニメーション ～成田亨の仕事を中心に」	: シアター
18:30 学会賞授与式	: シアター
19:00 懇親会	: カフェ「4匹の猫」(会費制)

6月25日(日)(9:30~受付開始)

研究発表 ワークショップA・B

10:00~12:00

研究発表(テーマパネル 1A) : ワークショップA

- 足立加勇 「キャラクターの死が示す、アニメーションの本質」
- 萱間 隆 「政岡憲三の作品におけるプレスコとリップシンク」
- ベンヤミン・フィツェンライター 「歌舞伎の転換道具についての研究」
- 古城文康 「アニメーションの視点：主観と客観について」

10:00~12:00

研究発表(一般パネル 1B) : ワークショップB

- 野村康治・野村建太 「カットアウト人形を用いたアニメーション実習課題の有効性について」
- 松本 淳 「3D技術はアニメの何を変えるのか？」
—「けものフレンズ」「正解するカド」が示した方向性
- 有持旭 「プリート・パルンの風刺画から読み解く〈不条理〉」
- 呂 萌 「中国「動漫」雑誌における日本アニメの伝播」

13:00~14:30

研究発表(一般パネル 2A) : ワークショップA

- 陳 龔 「万兄弟以前の中国アニメーション作家」
- 平野 泉 「玩具が喚起する想像力——「ホビーアニメ」の特徴的表現」
- 森友令子 「キャラクターデザインと演技についての一考察」

13:00~14:00

研究発表(テーマパネル 2B) : ワークショップB

- 渡部英雄 「アニメーション業界に於けるアナログ撮影技術について」
- 鈴木清重 「アニメーションの原理に関する心理学的研究」
—鑑賞体験と制作技法の予備的分類—

14:30~15:30

研究発表 (テーマパネル 3A)

: ワークショップ A

- 吉村浩一 「“不気味の谷”を枠組みに用いてアニメーションの動きを捉える」
- 権藤俊司 「ジャンルとしてのアニメーション概念の成立」
—1910年代アメリカ映画関連文献における"animated cartoon"を中心に

14:00~15:30

研究発表 (一般パネル 3B)

: ワークショップ B

- 佐藤壮平 「動きの知覚・認識における身体図式の影響」
- 成澤 傑 「アニメによるシミュレーションゲーム要素の表現」
- 中村 浩 「仮現運動知覚において運動捕捉錯視が意味するもの」

15:45~ 日本アニメーション学会総会

: シアター

16:45~ 閉会式

: シアター

* 関連上映 シアター

A プログラム ラブラブショー×JSAS大会 連携上映	(30分)
------------------------------------	--------------

1 夏のゲロは冬の肴	冠木佐和子	03:00
2 あたしだけをみて	見里朝希	07:30
3 Birth - つむぐいのち	若見ありさ、荒井知恵、こぐまあつこ	19:04

B プログラム 学生アニメーション最前線！ ICAF2016 セレクション①	(25分)
---	--------------

1 広島市立大学	a cup of coffee	長野櫻子	02:30
2 アート・アニメーションのちいさな学校	Puddle	クレイ班	04:04
3 武蔵野美術大学	イン・ザ・フィルム	うぐいす工房	06:14
4 京都精華大学	イタダキノサキ	斉藤圭一郎	11:59

C プログラム 学生アニメーション最前線！ ICAF2016 セレクション②	(29分)
---	--------------

1 東京工芸大学	ノアの口庭	狩野洋典	04:21
2 東京藝術大学	夏の女神の口の中	刘新新	05:40
3 東京藝術大学	I think you're a little confused	小川育	08:22
4 金沢美術工芸大	papa	gammy	02:34
5 東京造形大学	I CAN SEE YOU	顧 傑	08:00

D プログラム 学生アニメーション最前線！ ICAF2016 セレクション③	(28分)
---	--------------

1 女子美術大学	TABEMONO-MATOPE	北村 香菜子	04:59
2 多摩美術大学	怪獣風呂	橋爪 伸弥	04:50
3 多摩美術大学	oldman youngman	加賀 遼也	10:53
4 多摩美術大学	FEED	岡崎 恵理	06:53

E プログラム 学生アニメーション最前線！ ICAF2016 セレクション④	(29分)
---	--------------

1 東北芸術工科大	梅雨の日	先崎 大朗	04:50
2 東北芸術工科大	ヘアサイクル	有馬 みゆき	01:55
3 札幌市立大学	jorro	塩田茉莉衣	01:22
4 北海道教育大学	やけどとほし	三上あいこ	05:20
5 北海道教育大学	私には未来がある	大内りえ子	15:22

【プログラム内容】

○基調講演「アニメーションの原点、その研究の原点、学問と学会の原点」

小出正志（日本アニメーション学会会長）

○シンポジウム1：「日本のアニメーションの“はじまり”」

2017年は、国産アニメーションが公開されて100年の記念の年になります。この100年間、日本のアニメーションは世界でも例を見ない道筋で発展し、独特の様式を獲得してきました。このシンポジウムでは、日本のアニメーション100年史の中で、アニメーション産業のはじまり、アニメ（anime）のはじまり、日本的なセルルックのデジタルアニメ、そして3DCGアニメのはじまりなど、いくつかの転機を捉え、それぞれの時期の「はじまり」について、それぞれの専門家をパネリストとして迎えて、日本のアニメーション（アニメ）の独自性や今後について議論したいと思います。

登壇者：

- モデレーター 津堅信之（アニメーション研究家）
- パネリスト 木村智哉（明治学院大学非常勤講師）
- 藤津亮太（アニメ評論家）
- 木船徳光（東京造形大学教授）
- 野口光一（東映アニメーション）

○シンポジウム2：「美術、特撮、そしてアニメーション ～成田亨の仕事を中心に」

青森県立美術館は青森県出身の彫刻家、美術家である成田亨が手がけた「ウルトラ Q」、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」のヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニックのデザイン原画189点を収蔵しており、コレクションの大きな柱のひとつになっています。美術とサブカルチャーの領域を横断しながら活動した成田亨の歩みを振り返りながら現代という時代からの評価付けを行うとともに、特撮、アニメーション、漫画といった「表現」の制度についても改めて考えてみたいと思います。

また青森県立美術館でこれまで企画した展覧会で制作したオリジナルアニメーションの上映を行い、これからの展覧会のあり方についても討議します。

※成田作品は学会当日、コレクション展でご覧いただけます。

登壇者：

- モデレーター 伊藤隆介（北海道教育大学）
- パネリスト 池田亨（青森県立美術館美術企画課長）（非会員）
- 工藤健志（青森県立美術館総括学芸主幹）（会員） 他